



編集・発行
県南教育事務所



「対話するよさの実感」

県南教育事務所長 鈴木 正和

徒歩による通勤は、思いがけない発見を与えてくれます。初夏のこの季節は、様々な生き物の変化に五感が刺激されることで、通勤の足取りが少し軽くなるのを感じます。途中、バラの花を見事に咲かせている家の前を通るのですが、その彩りと香りにはいつも元気づけられています。そんなある日、バラの世話をしていたおばあさんに感謝の気持ちを伝えようと初めて声をかけてみました。すると、このバラは、以前住んでいた家の庭に植えてあったほんの一部で、引っ越しと一緒に持ってきたこと、様々な色のバラを植えるのは咲く時期が違うために少しでも長い間楽しむためであること、そして、通る人にも楽しんでもらうために世話をしていること等を話してくれました。このバラには昔の思い出が込められ、多くの人を喜ばせていることが分かり、普通のバラとは違う新たな見え方がして、改めて人と対話することの大切さを実感したひとときでした。

今年度も県南域内の全ての小中学校を訪問し、授業を参観させていただいています。子ども同士のかかわり合いを大切にしながら学びを進める先生方の姿が多く見られ、「主体的、対話的で深い学び」を意識した授業づくりが進められています。隣や近くの友達に、身振り手振りを入れながら目を輝かせて話す子どもは、対話することの楽しさやそのよさを実感していることが分かります。しかし、中にはなかなか隣を向かず対話することへ

の抵抗を感じている子どもも見られます。コロナ禍により、大人も子どもも人と対話する機会が少なくなり、人前で大声で話したり笑ったりすることがあたかも悪のような状況が続いています。また、私たちの幼少期の生活と比較しても、テレビを中心とした家族団らんの時間からパーソナルな機器を楽しむ時間へ。日没まで寄り集まっての遊びが習い事やゲームへ。さらに買い物での売り手買い手のやりとりがセルフレジへ等々、対話する機会や声を発する場面が減少しています。これらのことから、今の子どもたちは対話のよさや必要性を感じる機会が少なくなっています。

このような現状を踏まえて、「対話的で深い学び」を進めるためには、私たち大人が理解している対話の価値を、子どもたちにも実感として味わわせて、その楽しさやよさを様々な活動の場面で、経験として積み重ねていくことが大切であると感じます。このことで、授業の中での対話が形ではなく、子どもにとって必要感のある、新たな気づきや発見を生む対話につながっていくものだと思います。

マスクがとれ、子どもたちの豊かな表情、笑顔であふれる教室がまもなく戻ってくることでしょう。学校訪問の中で、子どもたちが生き生きと友達と「対話」し、共に学びをつくり上げていく姿がたくさん見られることを楽しみにしています。

～「個の意識とつながりを大切にしながら」～

朝の通勤途中、小学生たちが元気に挨拶しながら横断歩道を渡っていきます。運動着姿でリュックを背負っていた日は、きっと遠足だったのでしょう。みんないい顔で、地域の方や保護者に見守られながら歩いて行きます。

日常の当たり前の光景ですが、その光景は安全を守るいろいろな要素に支えられています。自動車を運転するドライバーの規範意識や歩く子どもたちの注意力であったり、登校を見守る方々の危険予知だったり、いろいろな要素が当たり前のこの日常をつくっているのではないのでしょうか。それらの要素が一つ欠けたり、いくつかの要素が欠けたりした時に、日常では起こりえないことが起こることがあります。子どもの安全確認が足りなかった時、見守る方は「よく見てね。気をつけなよ。」と声をかけます。ドライバーは、ヒヤッとした経験から、自分の安全確認を見直します。そうやって、一人一人が意識を高めながら安全が保たれていると考えます。

学校の不祥事防止においても、大切なのは一人一人の意識です。そして、その意識を保ったり高めたりするために必要なものの一つが職場でのコミュニケーションです。コミュニケーションを大切にしたい風通しのよい職場づくりを通して、職場全体の意識を高めていきましょう。

各学校におかれましては、「不祥事根絶のための行動計画」を作成され、全職員で共有されたことと思います。服務倫理委員会や学期末の職員会議等、この一年間の中で見直しや確認を行う機会を設定していただき、各校の行動計画が、職員一人一人の意識を支え、高めるための柱となることを願っています。

教員になったときの初心を大切に、子どもの前に立つ仕事に誇りを持っていきたいものです。子どもたちのために、同僚のために、身近な人たちのために、不祥事防止に向けた高い意識を持って、明日からも仕事に取り組んでいきましょう。

夢と希望をはぐくむ県南の教育の推進
～学校教育課関連記事～

「生徒指導と道徳教育の充実」

県南教育事務所では、今年度の重点支援として「一人一人が安心して学べる環境づくり」と「道徳教育の充実」を設定しました。新たな不登校を出さないためには、全ての児童生徒が学校に来ることを楽しいと感じ、学校を休みたいと思わせないような、日々の学校生活の充実が重要です。これは、年々認知件数が増加している「いじめ」の未然防止に対しても同様です。また、5月に開催した不登校・いじめ等対策推進事業域別シンポジウムでは、SSRの実践紹介とSCやSSWとの連携に関する講義、不登校への対応について情報交換を行いました。不登校の予兆やいじめを認知した際には、初期対応が重要となります。SCやSSWとの連携も視野に入れながら、組織的な対応を行ってください。

各種訪問では、児童生徒の様子から「一人一人が安心して学べる環境づくり」や「道徳教育」についての把握に努めてまいります。また、道徳教育の要となる道徳科の授業づくりについて、各種訪問や研修会を通して指導助言を行ってまいります。11月25日には、中島中学校を会場として道徳教育推進事業地区別研究協議会を開催します。詳細は後日お知らせいたしますので、よろしくお願ひします。

「確かな学力の向上」

令和4年度より福島県教育委員会では第7次総合教育計画の中に「学びの変革プラン」を位置付け、その推進を図っております。この「変革」の意味するところは、児童生徒が誰1人取り残されることなく、必要となる資質・能力を確実に育成することです。そのために画一的で一方的な授業等から個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びに変革することが求められます。そのための基本ツールとしてGIGAスクール構想による1人1台端末の活用が不可欠とされております。各学校においては令和4年度も継続して、児童生徒の資質・能力の育成のために活用を図っていただければ幸いです。その際、昨年度来より積み重ねてきた活用方法を検証し、さらに効果的な活用方法や実践事例の共有を進めることが必要かと考えます。

また、昨年度初めて経年変化が明らかになった「ふくしま学力調査」について、分析結果を指導計画や授業改善に反映させることや、個々の児童生徒の伸びを認め、励ますことにつなげていただければ幸いです。

県南教育事務所では、今後も各種訪問を通して、先生方の指導力向上を支援し、幼児、児童、生徒の資質・能力が着実に育成されることを目指してまいります。

「健やかな体の育成」

「ふくしまっ子健康マネジメントプラン」も2年目を迎えました。今年度も「自分手帳」活用事業をメイン事業に掲げ、「自分手帳」を効果的に活用し、自己マネジメント能力の育成に取り組んでまいります。

さて、県南域内の令和3年度の自分手帳活用率は、小学校で94.1%、中学校で88.9%、高等学校で28.6%でした。県南教育事務所では、域内小・中学校活用率100%を目標に掲げております。「令和3年度ふくしまっ子元気大賞 Book」等を参考にし、各学校にあった効果的な活用をお願いいたします。また、小→中→高の確実な引き継ぎもあわせてお願いいたします。

県教育委員会主催「みんなで跳ぼう！なわとびコンテスト！」が今年度も行われます。今年度から**中学校も対象**となります。なわとびは、日常的に運動の機会を増やすことができたり、「有酸素運動」を継続することにより肥満傾向児出現率の縮減につながったりします。長なわ(団体)・短なわ(個人)部門があり、Web上で自分で記録を登録するといった簡単な方法で参加が可能です。ぜひご参加ください。



実施期間：令和4年9月1日～令和5年1月31日

「特別支援教育の推進」

近年、通常学級においても特別な支援を必要とする子ども達が増えており、特別支援教育に求められる役割が大きくなっています。また、特別支援教育担当者はもとより、通常学級担当者からの研修のニーズも高まっています。このような現状から、県南教育事務所では、多様な学びの場の充実・整備の推進と切れ目のない支援に向けた取組を行い、特別支援教育の充実を目指してまいります。中でも、「校内体制の整備」や「担当教員の専門性の向上」が重要な取組としてあげられます。各種訪問等で、子どもの学び方に合った授業づくり、先生方を支える仕組みづくりの一助となるような助言を心がけてまいります。また、障がいのある子ども達が就学前から在学中、卒業後も一貫した切れ目のない支援を受けながら学び、自立した生活を送ることができるよう、個別の教育支援計画や指導計画の作成と活用に向けた支援も行なってまいります。

今年度も「切れ目のない支援体制整備事業」における相談・研修支援を継続して行います。教育事務所と特別支援教育センター、特別支援学校がチームとなって相談・支援を行うことで、市町村や幼稚園、小・中学校、高等学校における特別支援教育が充実するよう支援してまいります。

「人づくり」「地域づくり」「絆づくり」 ～ 社会教育事業の取組を通して～

今年度から令和12年度までを期間とする第7次福島県教育総合計画では、福島県で育成したい人間像を「急激な社会の変化の中で、自分の人生を切り拓くたくましさを持ち、多様な個性をいかし、対話と協働を通して、社会や地域を創造することができる人」としております。また、新学習指導要領に示されているように、社会に開かれた教育課程の実現が強く求められています。そうした中において、「人づくり」「地域づくり」「絆づくり」を推進する社会教育が担う役割はますます重要なものとなってきています。

社会教育課の事業の中から、学校教育との関わりが深い取組について御紹介します。

【地域学校協働本部事業】

学校と地域が連携・協働し地域住民の参画を得ながら、地域の教育力向上と地域のコミュニティの形成を図るために、地域連携担当教職員や協働活動を推進する方々を対象とした研修会等を行います。

地域連携担当教職員は令和元年度より全校に配置され、学校と地域の連携・協働に大きな成果を上げております。県南域内では、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の導入も進んできています。“社会に開かれた学校づくり”と“学校を核とした地域づくり”に貢献できるよう取組を充実させてまいります。

【地域でつながる家庭教育応援事業】

家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支

援し、地域で子育てをする親を支援する家庭教育支援者の資質向上に向けた研修会等を行います。

県では昨年度より、「福島県家庭教育支援チーム」の登録制度を設け、不安や悩みを抱える保護者への支援の輪を広げる取組をスタートさせております。また、家庭教育の支援に関わる方々を対象とした研修会や、企業内での家庭教育に関する学習会を開催し、支援者の養成や資質向上、保護者の学習機会の提供などに取り組んでまいります。

（福島県家庭教育支援

チームの詳細は社会教育課 HP で御覧いただけます。）

【ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい事業】

人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上のために、人と人のかかわりの中で感じた思いや願い、震災からのさらなる復興への願いや「ふくしま」への思い等を十七字で綴るこの事業には、毎年数多くの作品が寄せられております。昨年度は、域内で8,650組もの応募がありました。世代を超えた絆づくりにつながるこの事業に、引き続き皆様の御協力をお願いいたします。



小 学 校 紹 介

「ビブリオバトル」で読書活動をヒートアップ！

白河市立小野田小学校

小野田小学校では、読書活動がさかんです。昨年度の学校図書館の貸出冊数は一人あたり約90冊。2階と3階のオープンスペースにはそれぞれ1～3年生用と4～6年生用の読書コーナーがあり、毎週火・水曜の「朝の読書」では各学級がシーンとして読書に集中します。地域のボランティアの方々が月に1回程行う「読み聞かせ」は下学年の子ども達の大きな楽しみです。地域にある東図書館からは「うぐいす号」という車の移動図書館が定期的に学校に来てくれます。本校の読書活動の一番の特色は「ビブリオバトル」です。一人一人が選んだ本の魅力を2分間で友達に向かって熱く語ります。数人のスピーチを聞いて、そのうちのどの本を読みたくなったか投票します。一番投票が多かった本がチャンプ本になります。1次予選、2次予選を経て最後の1～6年生代表による本選で学校全体のチャンプ本が決まります。年に2回、6月と10月に3週間かけて行われる「ビブリオバトル」は学校中が盛り上がる大イベントです。



「縦割り活動で育む絆」

矢吹町立中畑小学校

明治7年創立、今年148年を迎える本校は、「自ら考え行動し、夢に向かって本気で学び、鍛え挑戦する子ども」を教育目標に掲げ日々の教育活動を進めています。1年生から6年生まで、みんなが家族のように仲の良い子どもたち。本校では縦割りによる清掃だけでなく、月に1回程度縦割り班で活動する「なかよしタイム」、そして年に1回の「なかよしふれあい祭り」を行っています。「なかよしタイム」では、各班ごとに計画を立て、ゲームや季節の行事を味わう活動などを行い、「なかよしふれあい祭り」では、ボウリングやつり、射的など各班で遊びを考え、手作りで準備した遊びを一斉に公開し、お互いの班の遊びをみんなで思い切り楽しみます。縦割り活動が生み出す子ども同士の絆。これが本校の温かい関係づくりを支えています。そして愛をもたらずとも言われるクジャクが、そんな子どもたちの様子を毎日飼育小屋から見守り、時には声を上げて子どもたちを励まし応援する、癒やしあふれるのどかな学校です。



新任の先生方から



「開校に向けて」
白河実業高等学校
校長 永山 広克

本校は、令和5年度に埼玉工業高校と統合し、商業科、工業科（機械・電気・電子）に加え新たに「建築科」を新設して新生「白河実業高等学校」として開校します。先進的な専門教育と高度な技術を学びながら、部活動や資格取得など文武両道を推奨し、専門高校ならではの特色ある教育を実践します。進路指導では、大学進学や地域企業への就職など生徒一人ひとりの夢の実現に向けて支援して参ります。福島の社会や地域を創造する個性豊かな人材、福島の未来を逞しく創生する人材を育てて参ります。



「地域とともに」
西郷村立西郷第二中学校
校長 金川 純

4月に新任校長として着任し、保護者や教職員はもちろん、地域の方々の協力に支えられていると感じる毎日である。登下校見守りから部活動指導、本校のシンボル「希望ヶ丘」及び約5万㎡を超える広大な敷地管理まで、地域との連携は学校教育の充実に欠かせない。そのような地域の方々に対し、生徒たちは元気なあいさつや地域の清掃活動により地域の活性化に貢献することで、地域と学校ともにwin-winの関係づくりが推進されている。地域の未来を支える人材育成のために、学力向上はもちろん、地域のよさを身につけることが必要と考える。



「多様性とブレない信念」
中島村立滑津小学校
教頭 高木 弘志

目の前の業務を覚え、提出期日に怯えながらひたすらこなす、教頭としての一ヶ月はそのような日々でした。正解がない多様な価値観が行き交う時代の中、瞬間的に、根拠のある正確な判断が迫られる責任はとても重く感じます。それでも、子どもたちにはオーダーメイドで最適な学習環境を、教職員にはストレスのない職場環境をつくることに軸足を置き、礼儀と人情、感謝の心が欠如しないよう、ブレない信念で子どもたちを育てます。そして日々助けてくださる教職員、地域、子どもたち、保護者に恩を返す気持ちを貫く所存です。



「笑顔のために」
矢吹町立三神小学校
教頭 佐藤 香奈

本校の職員室はいつも明るく、児童の様子、学習指導の悩み、最近話題のニュース、自分の趣味などの話が飛び交う、風通しの良い職員室です。困っている先生がいると自然に手を差し伸べている先生方の姿から、学ぶことがたくさんあります。教頭の仕事は大変ですが、周りの人とのつながりを大切に、自分自身成長していきたいと考えています。そして、子ども達や先生方が、まずまず笑顔で力が発揮できるように、自分にできることを考え、校長先生の経営ビジョンの具現化に向けて、ひとつひとつ丁寧に取り組んでいきたいと思っています。



「感謝と成長」
埼玉工業高等学校
養護教諭 八巻 麗未

令和4年4月、埼玉工業高校で最後の1年生となる生徒が入学するとともに、私も新任として着任しました。毎日が学びの多い日々で、生徒の素直で明るい姿に元気をもらいながら頑張っています。養護教諭は周囲の先生方の協力や助けが必要不可欠で、これまでもたくさんの支えがあって、全てが今に繋がっていると思います。感謝の気持ちをいつまでも忘れず、そして丁寧に目の前の生徒と関わり、一緒に悩み、考え、子どもたちの成長を見守りながら私も一緒に成長していきたいです。



「棚倉小学校の一員として」
棚倉町立棚倉小学校
教諭 小林 凜

今年4月に初任者として棚倉小学校に着任しました。教員生活が始まってたくさん子どもたちや先生方と出会い、とても楽しい毎日を送ることができています。楽しいだけではなく、挑戦と反省の繰り返しでたくさんの学びや発見があります。本校ではキャリア教育を柱として教育を進めています。子どもたちは、「なりたい自分になるために」各自目標を設定して日々努力をしています。また、先生方は子どもを第一に考え向き合って指導しています。私自身も子どもたちひとりひとりに寄り添いながら全力でサポートをし、共に成長していけるよう頑張りたいと思っています。